

沖縄県における野菜事情



4 沖縄県中央卸売市場における野菜の取扱状況

沖縄県中央卸売市場における野菜の総取扱量は、平成十一年には六万七千トン、金額では百四億円と年々増加傾向にあります。

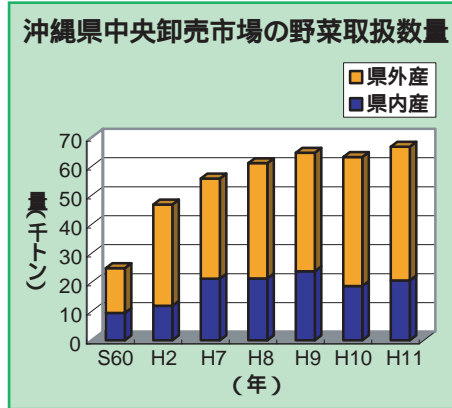
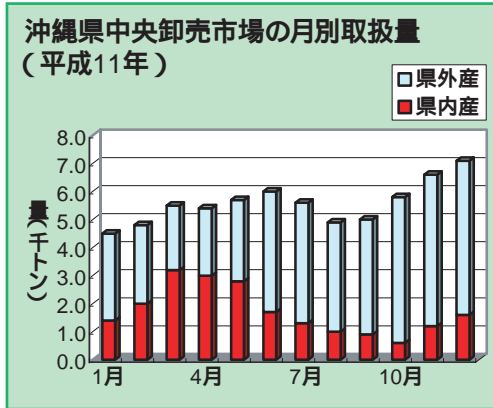
また、月別県内外産別の野菜の取扱状況をみると、県内産が過半を占める月は、三・四月までの僅か二月間となっています。これは、夏秋期の野菜生産が、台風、干ばつ、高温、病害虫の発生等の厳しい条件下であるため、県内野菜の生産量が特に少なく、県外産に依存していることが大きな要因となっています。



沖縄県の野菜は、温暖な気象条件を活かして、本土の端境期である冬春期を中心に生産・出荷しており、本土市場向けの野菜供給地として定着しつつあります。

1 沖縄農業における野菜の位置付け

平成十一年の野菜の農業粗生産額は百二十三億円で、耕種部門においてさとうきび（百九十七億円）、花き（百三十七億円）に次ぐ重要な作物となっています。

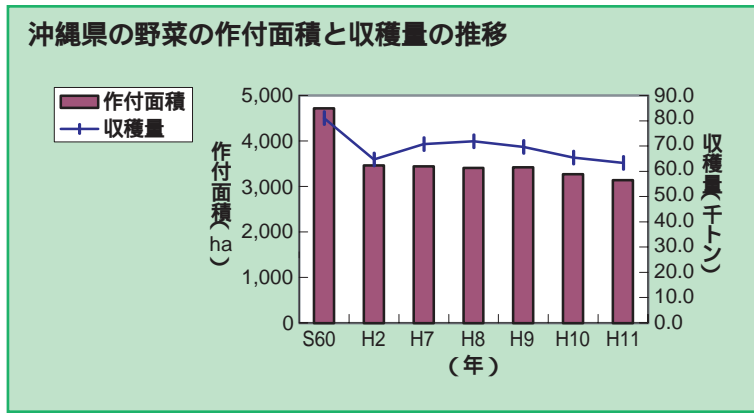


5 今後の課題

県内における指定野菜産地は、昭和六十二年の勝連町津堅の春夏・冬にんじんの指定をはじめ、これまでに十産地が指定されており、これら野菜産地を中心に野菜の生産振興が図られ、県内外の市場へ出荷されています。

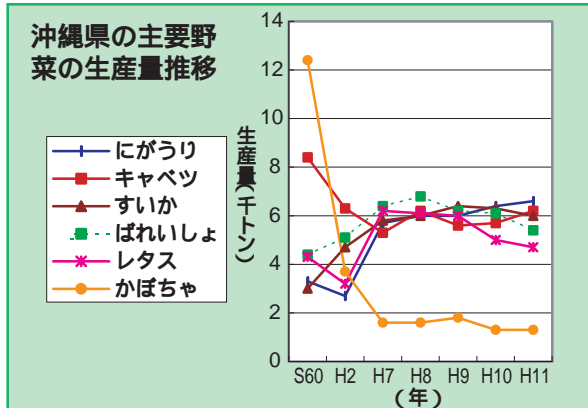
2 野菜の生産動向

県内における最近の野菜の生産状況をみると、作付面積はこれまで漸減傾向で推移し平成十一年には三千四百四十ヘクタール、収穫量も一時増加したものの総体的には減少傾向で推移し平成十一年には六万三千三百トンとなっています。減少した主な理由は、農家の高齢化による後継者不足や長期にわたる野菜価格の低迷等があげられます。



3 品目別の生産動向

県内主要野菜の生産動向について、昭和六十年から平成十一年までの推移をみると、にがうり（二百％）、すいか（二百％）、ばれいしょ（百二十三％）、レタス（百九％）が増加しており、一方、かぼちゃ（十％）、キャベツ（七十四％）等が減少しています。増加の要因としては、にがうりは優良品種の開発・普及、園芸施設の普及、すいかやばれいしょはブランド化が定着して市場の評価が得られたこと、レタスはサラダ用等業務用の需要が増加したこと等があげられます。一方、減少した要因としては、病害虫の発生・連作障害、外国産との競合等があげられます。



沖縄県における野菜指定産地の指定状況

種別	産地名	指定年度	作付面積(H11年度)	出荷量(H11年度)
春夏にんじん	津堅	昭和62年度	30	410
冬にんじん	"	"	15	208
冬キャベツ	本部	"	25	600
春夏にんじん	喜屋武	平成6年度	33	595
冬レタス	沖縄本島南部	平成7年度	87	2,094
春レタス	沖縄本島南部	"	25	670
冬にんじん	喜屋武	"	21	268
冬春トマト	饒波	平成8年度	13	650
冬春ピーマン	具志頭	平成9年度	11	610
ばれいしょ	やんばる宜野座	平成10年度	34	537
冬春きゅうり	名護	平成11年度	11	207

注)：平成12年8月末現在、全国1,188産地、沖縄10産地（本部町冬キャベツは平成12年に解除）

6 セーフガード暫定措置について

政府は、四月二十三日から、ねぎ、生しいたけ、薑表の三品目についてセーフガード暫定措置の発動を開始しておりますが、その内容は、四月二十三日から十一月八日までの二百日間において、一定の輸入数量までは現行関税率を適

用し、それを超えるものについて一定レベルの関税をかけることとしています。

ねぎ等に対して暫定的に課する緊急関税について

- 関税割当
(以下の数量については現行関税率が課される)
(1) ねぎ: 5,383トン
(2) 生しいたけ: 8,003トン
(3) 薑表: 7,949トン
- 関税
(上記1の数量を超える輸入については現行関税率に加え、以下の関税率が課される)
(1) ねぎ: 225円/kg
(2) 生しいたけ: 635円/kg
(3) 薑表: 306円/kg
- 施行期日 平成13年4月23日

